



# 青少年ひょうご No.90



## 特集

### 青少年のネットトラブル未然防止大作戦 ～インターネット利用に関する学習 及び啓発活動の推進～

#### ひょうご青少年憲章

- 1 自分を大切にし、自らを律し、行いに責任をもって生きていこう
- 2 ふれあいを深め、正義感をもち、社会を担う一人として生きていこう
- 3 人の痛みや喜びを感じあえる心をもって生きていこう
- 4 多様な人々の存在を受け入れ、ともに支えあって生きていこう
- 5 自然を愛し、生命を尊び、みえない世界にも襟を正して生きていこう
- 6 先人に学び、明日に夢をえがき、勇気をもって未来を拓いていこう

#### 地方青少年本部

阪神南青少年本部 06-6481-4634	西播磨青少年本部 0791-58-2131
阪神北青少年本部 0797-83-3138	但馬青少年本部 0796-26-3648
東播磨青少年本部 079-421-9105	丹波青少年本部 0795-72-5168
北播磨青少年本部 0795-42-9352	淡路青少年本部 0799-26-2048
中播磨青少年本部 079-281-9198	神戸事務局 078-382-8249

## CONTENTS

P2 特集記事

P4 本部事業報告

- ・兵庫県青少年本部表彰
- ・放課後児童支援員認定資格研修事業
- ・青少年活動リーダー・スキルアップ研修
- ・ひょうご青少年社会貢献活動交流フォーラム

P6 地方青少年本部通信

P7 青少年活動の現場から

P8 ～information～

賛助会員募集

編集・発行 2016年1月発行

公益財団法人 兵庫県青少年本部

〒650-0011

神戸市中央区下山手通 4-16-3 兵庫県民会館 8階

TEL078-891-7410 FAX078-891-7418

<http://www.seishonen.or.jp/>

# 青少年のネットトラブル未然防止大作戦

## ～インターネット利用に関する学習及び啓発活動の推進～

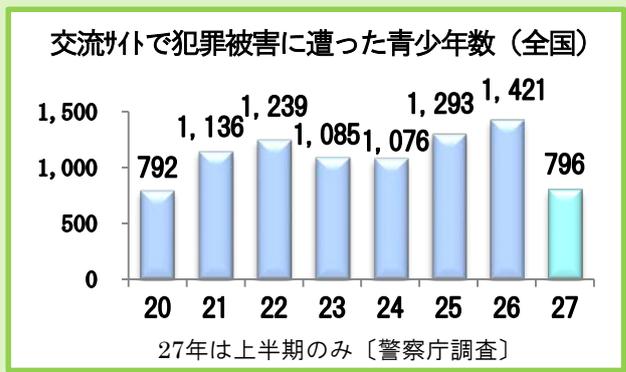
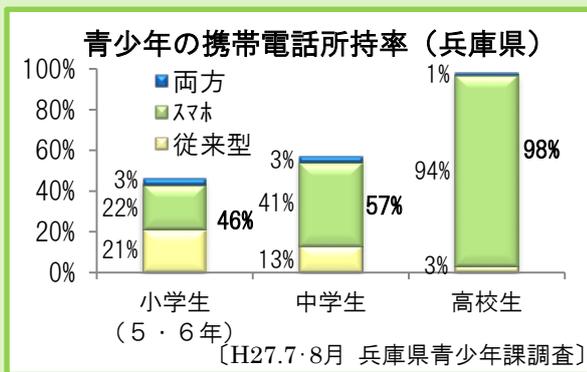
スマートフォンやゲーム機などインターネットに接続可能な機器の普及に伴い、青少年がネットトラブルや犯罪に巻き込まれる危険性が増しています。

兵庫県青少年本部では、昨年度から「青少年のネットトラブル未然防止大作戦」を重点事業として掲げ、産官学民の関係機関と連携しながら、青少年の適切なインターネット利用について、家庭・学校・地域の関係者が青少年とともに考え、学ぶ機会を提供し、取組の輪を広げる県民運動を推進しています。

### スマホの普及などに伴い、様々なネットトラブルの実態が明らかに…

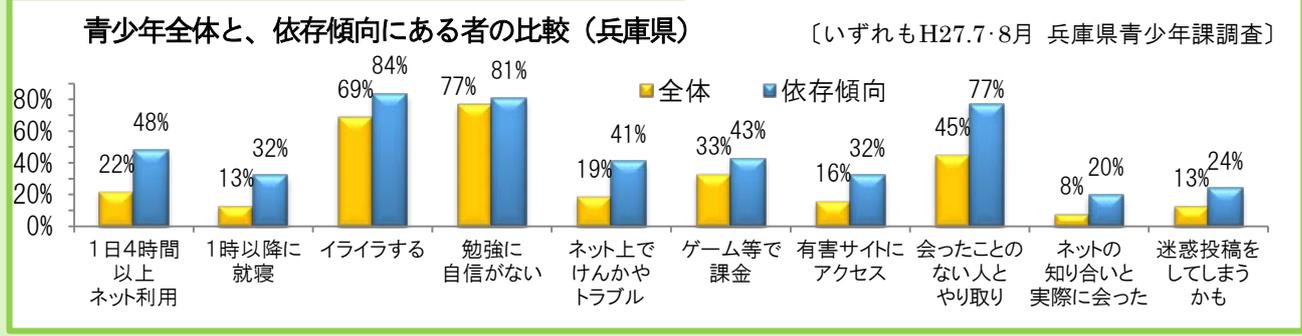
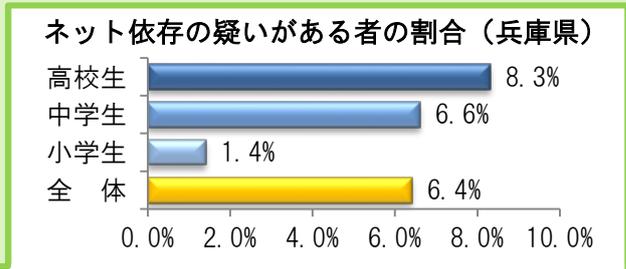
県内の青少年がスマートフォン（スマホ）や携帯電話（従来型）を所持している割合は、小学生（5・6年）46%、中学生57%、高校生98%と、年々増加しています。

警察庁のまとめによりますと、いわゆる交流サイトで犯罪被害に遭った青少年数は昨年、過去最悪となり、今年も上半期時点で昨年を上回る過去最悪のペースです。フィルタリング利用状況が分かった者のうち、96.3%が使用していませんでした。



青少年のネット依存傾向を調べた県の初めての調査では、6.4%の青少年にインターネット依存の疑いがある（依存傾向にある）ことが分かりました。

依存傾向にある青少年は、長時間利用の傾向が顕著で、夜更かし、ネット上でのトラブル、課金、有害サイトへのアクセスや、ネットの知り合いと実際に会ったなどの割合も高くなっています。



## 産官学民の関係機関と連携

### 「青少年のネットトラブル未然防止大作戦推進会議」の継続運営

子どもとネット問題に詳しい兵庫県立大学環境人間学部准教授の竹内和雄氏を座長とする推進会議に、今年度新たに事業者やマスコミの参画を得て、引き続き取組内容の検討等を行っています。

### 「青少年育成スクラム会議」での協議・検討

産官学民が参集する「青少年育成全県スクラム会議」（7月1日開催）や「地域スクラム会議」で、青少年のインターネット利用対策について、活発な意見交換が行われました。



# 様々な学習・啓発活動を展開

## 小中高生が検討した「ケータイ・スマホアンケート」の実施

小中高生有志による「兵庫県のスマホ問題を考える会」が、県立大竹内准教授らの指導のもと「アンケート検討会」で検討した「ケータイ・スマホアンケート」を、県内小中高生約3,000人を対象に実施。アンケート結果についての検討会も行いました。



## 「青少年のインターネット利用対策活動事例」の募集

青少年のインターネット利用対策に関する、情報モラルの向上や有効なトラブル対処法などの実践活動を募集し「活動事例集」として取りまとめました。

## 「青少年のネットトラブル未然防止！メッセージコンテスト」の実施

兵庫県青少年を守る店連絡協議会と連携し、青少年がネットを安全に安心して利用でき、トラブルに巻き込まれないために、どのようなことに気をつければいいのか、願いや思いを込めたメッセージを募集しました。

### 【小学生の部】

- 最優秀賞** パパとママ 画面見ないで わたし見て  
豊島 妃奈 さん (尼崎市立大島小学校)
- 優秀賞** 考えよう かぞくでスマホの つかいゆた  
工藤 優花 さん (尼崎市立大島小学校)
- 奨励賞** 友達よ スマホの中より 君のそば  
宮 翔真 さん (尼崎市立園田小学校)

### 【中・高校生の部】

- 最優秀賞** ネットの中 消せる消しゴム ありません  
北村 成翔 さん (加古川市立中部中学校)
- 優秀賞** 責任は 書き込み全てに ついてくる  
菅我 育史 さん (加古川市立中部中学校)
- 奨励賞** 文字よりも 声を使って 伝えよう  
末吉 紅葉 さん (加古川市立中部中学校)

### 【一般の部】

- 最優秀賞** スマホより 目を見て話す 大切さ  
脇本 昌宏 さん (神戸市)
- 優秀賞** 見つめるのは 画面じゃないよ 相手だよ  
古澤 チエ さん (神戸市)
- 奨励賞** 落とし穴 ネットではまる おそろしさ  
服部 清秀 さん (姫路市)

### 【学校賞】

尼崎市立園田小学校 加古川市立中部中学校  
尼崎市立大島小学校 芦屋市立潮見中学校  
姫路市立大津小学校 三田市立長坂中学校  
神戸市立和田岬小学校 県立夢前高等学校  
尼崎市立尼崎工業高等学校

## インターネット等（親子）学習会への助成

青少年のネット利用の利便性や危険性を知るための学習会（参加者10名以上）の講師謝金、会場使用料等に対し、3万円を上限に助成を行っています。  
問合先：青少年本部 ひょうご子ども・若者応援担当 078-891-7410

## 青少年のインターネット依存防止対策セミナー 「キケン川ネット長時間利用」の開催

国内初のネット依存治療部門を開設した(独)国立病院機構久里浜医療センターから講師を招き、県民向けセミナーを県青少年課との共催で行いました。

# スマホサミット IN ひょうご 2015

青少年の適切なネット利用について、青少年とともに考え、取組の輪を広げる機会となる全県大会を12月19日(土)に兵庫県公館で開催し、家庭での話し合い・褒めの必要性などについて青少年と意見が交わされました。

### サミット当日朝にワークショップを実施し、スマホ宣言を検討



### 「青少年のネットトラブル未然防止！メッセージコンテスト」表彰式



### 「ケータイ・スマホアンケート」結果報告・公開討論会



### 「青少年のインターネット利用対策先進活動事例」発表会



### ひょうごスマホ宣言 2016

- ①現実から 逃げる時間は ほどほどに
- ②ちょっと待て 相手の気持ちを 未読無視?
- ③フィルタリング あなたを守る 盾になる
- ④ネットの中 消せる消しゴム ありません

### 「ひょうごスマホ宣言2016」発表



### 最優秀賞

たつの市中学生生徒会  
『たつの市中学生サミット』を軸にした  
スマホ利用啓発活動の展開

### 優秀賞

SWING-BY 実行委員会 (猪名川町青少年健全育成会議)  
『猪名川版スマホの教科書作成とスマホの授業を展開しよう』  
～これからスマホを持つ小・中学生とその保護者に向けて  
授業をしよう！～

### 奨励賞

三木市教育委員会  
『三木市中学生ケータイ・スマホサミット  
三木市小学校ケータイ・スマホ教室』  
兵庫県立千種高等学校  
『地域とともに考える情報モラルの  
向上の取り組み～千種モデルの研究～』

青少年本部では「ひょうごスマホ宣言2016」などを活用しながら、青少年の適切なインターネット利用について考える県民運動を今後も推進していきます。

# 本部事業報告

## 平成27年度「兵庫県青少年本部表彰」

兵庫県青少年本部表彰は、地域で地道に優れた活動を展開している青少年等並びに指導者等を表彰し、その活動をさらに奨励するものです。

平成27年度の受賞者が、下記の17名及び3団体に決定し、11月29日（日）に兵庫県民会館11階パルテホールで表彰式を行いました。

### 受賞者・受賞団体

#### ＜青少年等の表彰＞

##### (1) 個人（9名）

的場 美桜（尼崎市）  
松本 佳奈（姫路市）  
梅田 華奈（神戸市）  
松本 佳奈（加古郡播磨町）  
南光 文香（加東市）  
石井 亜依（尼崎市）  
石井 佑依（尼崎市）  
白井 三賀（西宮市）  
小中 公平（宝塚市）

#### ＜指導者等の表彰＞

##### (1) 個人（8名）

神立 由美子（明石市）  
西 登（姫路市）  
佐野 好美（姫路市）  
前嶋 茂徳（神崎郡神河町）  
奥谷 昭博（赤穂市）  
村田 一紀（豊岡市）  
濱端 正司（洲本市）  
中村 正寿（神戸市）

##### (2) 団体（3団体）

比延っ子守る会（西脇市）  
社剣道スポーツ少年団（加東市）  
宍粟剣道連盟少年部（宍粟市）



## 「放課後児童支援員認定資格研修」

共働き家庭等の「小1の壁」を打破するため、放課後児童クラブは、必要のある全ての小学校区への設置や待機児童の解消に取り組み、これまで概ね小学校3年生までであった対象児童を6年生まで拡大することとなりました。そのような取り組みの中、「放課後児童支援員」が専門資格となり、平成27年度より認定資格研修の実施が始まり、県内各地で研修を行っています。

研修内容は、「こどもを理解するための基礎知識」や「保護者・学校・地域との連携の取り方」等、16科目計24時間の研修です。アレルギー症状が出た場合の児童への対応や、虐待の疑いを発見した時の対処等、すぐに実践に生かせる講義がたくさんあり、受講者は熱心に取り組んでいます。



児童虐待についてのグループワーク



アナフィラキシーへの対応について学ぶ

# 青少年活動リーダー・スキルアップ研修

10月3日(土)～4日(日)、11月7日(土)～8日(日)の4日間に渡り、県内の青少年活動・育成活動に携わる指導者を対象として、青少年活動リーダー・スキルアップ研修をOAAはりまハイツで開催しました。

団体・グループ等の枠を超えた広い視野で、青少年活動のあり方や課題等についてワークショップ・講義形式で学び、リーダーとして活動するために必要な専門的知識を身に付け、リーダーシップと意識の高揚を図りました。今年度は「ステップアップするわたし～輝くわたしをみつけよう～」をテーマに、リーダーとして活動する自分を振り返り、今後の明確な目標設定を目指しました。

また、今年度は特別講師にNPO法人生涯学習サポート兵庫の山崎清治氏をお招きして、ご自身の青少年活動の経歴とそこから得たことについて「無人島とリアカーと私」という演題でご講義いただきました。

参加者からは「自分自身を見つめ直すいい機会になった」「活動する上での方向性が定まった」「リーダーとは何か、自分なりの答えを見つけた」などの意見をいただきました。



## ひょうご青少年社会貢献活動 交流フォーラム

12月16日(水)、兵庫県民会館において「ひょうご青少年社会貢献活動交流フォーラム」を開催しました。

青少年が青少年団体・NPO法人等が実施する子どもの体験活動や被災地復興支援活動など社会貢献事業に一定期間参加した場合、その活動実績を公的に認定する「ひょうご青少年社会貢献活動認定制度」は、平成22年度からスタートして6年目をむかえ、今年度は12団体12事業が承認され、各事業に計61名の青少年が参加し、3月の修了認定に向けて実践活動に取り組まれています。

この制度には、平成26年度までに528名が参加し、239名が修了認定者となっており、また、社会貢献活動に深い理解を寄せられ、本制度にご賛同いただいた企業・団体が、平成27年11月末現在、148企業・団体となるなど、大きな輪が着実に広がりつつあることを実感しています。

フォーラムでは、今年度事業実施されている団体からの活動発表やグループワークを行いました。グループワークでは、「社会体験に学ぶスキル」をテーマに、事業実施団体や参加青年に加え、企業の方々や教育関係者もご参加いただき、青少年の社会参加の重要性や本制度の情報発信の必要性など、熱心に意見交換が行われました。

参加者からは、「様々な世代、所属の方と話す機会がもてて良かった」や「色々な立場の人と話ができて共有出来たことが、『自分を知る』『コミュニケーション力』『色々な体験』になった」などの意見をいただきました。



# ●地方青少年本部通信

青少年育成や地域づくりの分野での様々な活動を各県民局（地方青少年本部）単位で推進・支援する地域活動コーディネーターが、地域のイベントや催事などを紹介します。今回は、次の4つの本部からの報告です。

## 阪神北青少年本部

### 若者グループ企画イベント「スマイルフェスタ 2015」

恒例「スマイルフェスタ」を平成27年11月7日（土）に三田市総合福祉保健センターで開催しました。

参加した子どもたちは、紙コップに絵を描いたり飾り付けする「マラカス」や、動物や鳥をかたどった木片をカラフルに色を塗った「バッジ」などのクラフト体験、おもしろメガネなど奇抜なアイテムを身につけた「人物探しゲーム」を楽しみました。



また、ステージでは「お芝居」と「お楽しみ抽選会」に親子で盛り上がりました。

この「スマイルフェスタ」は若者ボランティアの手づくりで、半年前から月1回、3団体の実行委員がお勤め帰りや大学講義後集まり、自由な発想で子どもたち向けに企画します。そして当日は参画団体のメンバーが一体となりフェスタ全体の成功に向け、集客から運営までを手掛けます。

参加した子どもたちのいきいきした表情と、ボランティアの若者たちのパワーに、私たちも元氣とエネルギーを分けてもらった秋の一日でした。（川上 恵美子）

参加した子どもたちのいきいきした表情と、ボランティアの若者たちのパワーに、私たちも元氣とエネルギーを分けてもらった秋の一日でした。（川上 恵美子）



## 中播磨青少年本部

### わくわく体験フェア

～おもちゃの手作りや外遊びの楽しさを体験～

11月15日（日）、市川町文化センターで「わくわく体験フェア」を開催しました。同時開催のいちかわ商工祭&中播磨地域活動交流メッセを合わせ、約7,000人の方にご来場いただき、大いに盛り上がりました。

フェアでは、500人委員中播磨による「トイレットペーパーの芯など廃材を利用した万華鏡・紙トンボづくり」、500人委員中播磨OB会による「昔懐かしい機械を使ったポン菓子・ポップコーンの実演・配布」、播磨教



育センターによる「木片を使った大工遊びなどの外遊び」、ボーイスカウト姫路12団による「缶バッチづくり、火おこし、フリークライミング」等さまざまな体験コーナーを実施しました。



このフェアを通して、子どもたちは手作りの楽しさや外遊びのおもしろさを心と身体で味わえたのではないのでしょうか。参加した子どもたちが目を輝かせて真剣に取り組む姿、はつらつとした笑顔は非常に印象的で、保護者の方からも大好評でした。（入江 里映）

## 但馬青少年本部

### 山陰海岸ジオパーク小学生駅伝競走大会

今年で26回目を迎える但馬小学生駅伝競走大会は、世界ジオパークネットワーク認定（平成22年10月）を契機に、昨年度から参加エリアを但馬地域に加え、鳥取市、岩美町、京丹後市に拡大して「山陰海岸ジオパーク小学生駅伝競走大会」として開催しています。



第2回大会は、県立但馬ドーム周辺駅伝コースで10月24日（土）に開催し、男女合わせて105チーム、

総勢589名の小学生が参加しました。

秋晴れのもと、沿道からは、一本のタスキをつなぎゴールをめざすランナーの一人一人に惜しめない声援が続いていました。



優勝チームは、男女とも豊岡市立五荘小学校でしたが、お互いの健闘をたたえ合う姿に感動するとともに、今後も、駅伝を通して仲間意識を高め、府県を越えた交流の輪が広がることを期待しています。

（山根 克己）

## 丹波の森若者塾

～高校生によるふるさとの魅力を発見～

丹波の森若者塾は丹波地域にある6高等学校の高校生が地域課題等の研究テーマを設定し丹波地域に活動拠点を持つ大学のサポートを受けながら年間を通して研究・交流・体験活動を行うものです。

鹿の皮や無形文化財の「丹波布」を使った小物などの製作、地域の方に教わった昔の遊びを通して小学生以下の子どもたちとの交流開催、河川改修工事の魚類などに与える影響の調査、丹波市在住の外国人を講師に招いた調理実習と外国出身等の児童生徒支援についてのワークショップなど各校の特色を生かして課題解決へ向け様々な活動を行っています。

参加高校生からは「地域のことを意識することが多くなった」との声も聞かれます。

今後、2月6日（土）に各高校の取り組みの発表の場として合同フォーラムを開催するとともに、高校生交流会を開催し、ふるさとを通してのつながりを深めます。

（河津 知佳）



## ○ 青少年活動の現場から ○

### 一般社団法人 兵庫県少林寺拳法連盟

少林寺拳法は1947年、香川県多度津町で創始された日本生まれの武道で、自分の身体を養いながら他人と共に助け合い、幸せに生きることを説く「教え」と、自身の成長を実感し、仲間と共に上達を楽しむ「技法」、そしてその教えと技法を乖離させない「教育システム」が一体となった「社会に役立つ人づくりの道」です。日本国内では2873の所属、世界では36か国に普及している、単一の武道団体としては世界一



の規模を誇る武道団体です。兵庫県においては地域の道場のほか、中学・高校・大学や職域における部活動も含めて約190の所属が活動しており、各地域で青少年育成活動を展開しております。突き技・蹴り技などの剛法、抜き技・逆技・投げ技などの柔法、受身や座禅など多彩な内容を持ち、老若男女を問わずに誰もが御自身の体力に応じて取り組むことができる武道です。



## 青少年を暴力団から守ろう!!



暴力団に関するトラブルのご相談は  
**各暴力相談所へ**

神戸暴力相談所 ヤクザゼロ  
**078-362-8930**

尼崎暴力相談所 ヤクザゼロ  
**06-6481-8930**

加古川暴力相談所 ヤクザゼロ  
**079-427-8930**

姫路暴力相談所 ヤクザゼロ  
**079-222-8930**

相談受付時間/  
午前10時から午後4時まで(土・日・祝日と年末年始を除く)

（公財）暴力団追放兵庫県民センター

## ～information～

### 青少年交流プラザ

青少年や青少年団体等の主体的な活動を支援する「学習・交流の場」として、青少年交流プラザを開設しています。

開設場所 兵庫県民会館7階  
開設日時 月～金 9:00～21:00  
土・日 9:00～17:00

#### 施設概要

・セミナー室(予約制)・・・学習会、交流会など多目的に利用  
・交流サロン・・・学習や談話等ができるフリースペース  
申し込みは、兵庫県青少年本部 活動支援担当へ

### ふるさとづくり青年隊 成果発表会の開催について

「ふるさとづくり青年隊」事業を実施した12団体が取組事例を通しての学びを発表するとともに事業選定委員等からの助言を受ける機会とし、さらに団体相互の情報交換や交流を持つ場として成果発表会を開催します。

開催日 平成28年3月13日(日)13:00～16:30

場所 兵庫県公館 大会議室

内容 団体ステージ発表会 交流カフェ(ブース発表)など  
参加費 無料

問合せ先 青少年本部 活動支援担当 078-891-7410

## 賛助会員を募集しています

賛助会費は税制面での優遇措置の対象になります  
ご寄付いただいた方の名簿をホームページに掲載しています

次代を担う青少年を育成するために、ぜひ皆さまのご協力をお寄せください

[会費] 賛助会員(個人) 年額1口 2,000円以上 賛助会員(法人) 年額1口 10,000円以上

詳細は、兵庫県青少年本部、又は各地方青少年本部までお問い合わせください

賛助会員カードを显示すると、以下の施設で入館料・入園料割引等の特典を受けることができます

<b>兵庫県立美術館</b> 《特別展》 「生誕180年記念 富岡鉄斎—近代への架け橋—展」 3月12日(土)～5月8日(日) TEL 078-262-0901 (神戸市中央区)	<b>兵庫県立人と自然の博物館</b> 《特別企画》 「共生のひろば展」 2月11日(木)～4月3日(日) TEL 079-559-2001 (三田市)	<b>兵庫県立考古博物館</b> 《企画展》 ひょうごの遺跡2016—調査研究速報— 1月30日(土)～3月27日(日) TEL 079-437-5589 (播磨町)	<b>兵庫県立歴史博物館</b> 《特別企画展》 出石焼 一但馬のくらしとやきもの— 1月16日(土)～3月6日(日) TEL 079-288-9011 (姫路市)
<b>兵庫陶芸美術館</b> 《特別展》 明治有田 超絶の美—万国博覧会の時代— 3月19日(土)～6月5日(日) TEL 079-597-3961 (篠山市)	<b>阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター</b> 《企画展》 「減災グッズ展 vol.4 “パーソナリティ×減災”」 12月15日(火)～2月28日(日) TEL 078-262-5050 (神戸市中央区)	<b>神戸市立博物館</b> 《特別展》 須磨の歴史と文化展—受け継がれる記憶— 2月6日(土)～3月21日(月・初) TEL 078-391-0035 (神戸市中央区)	<b>兵庫県庁2号館 B1 食堂「のじぎく」</b> 割引 コーヒー 10%割引 (但し11:00～13:00除) TEL 078-362-2509 (神戸市中央区)

◇施設 本人および同伴1名(神戸市立博物館は本人のみ)に団体割引料金適用

◇兵庫県民会館レストラン・喫茶「ピッコロ」・理容室「今井」 本人のみに10%割引

◇県立兎和田野高原野外教育センター レンタル料割引

兵庫県が提供する「住まい再建のしくみ」

## フェニックス共済



年5,000円で最大600万円  
あらゆる自然災害の“もしも”に備えます



公益財団法人  
兵庫県住宅再建共済基金  
☎078-362-9400(コールセンター)  
(平日9:00～17:00)

フェニックス共済

検索

### ◆◆ 編集後記 ◆◆

特集で取り上げた「スマホ宣言」は、青少年のネットトラブルを未然に防止するためのルールを子ども達が宣言したのですが、同時に我々大人も肝に銘じないといけない大切な内容であると感じます。

ネット時代を生きる子ども達にとって、スマホ問題は死活問題だとも言われています。

こうした宣言を契機として、家庭や地域でスマホの使用方法等について、一度話し合ってみてはどうでしょうか。(0)